

和歌山県海南市

交流・関係人口増を目指したエリア体験型観光コンテンツ開発



【地域の基礎データ】

人口：49,508人（令和2年12月末現在）

高齢化率：36.1%（令和2年1月1日現在）

産業：製造業、家庭日用品産業 など

【活動の基本情報】

参加学生数：4名（1回生：3名、2回生：1名）

活動期間：令和2年6月～

担当教員：藤田武弘

1. 活動実施の経緯

下津町大崎地区に「げんき大崎館・かざまち」が設置（H27年）されて以来、毎週土曜日の「朝市（新鮮な地元農水産物と地元原料に拘った手作りのお惣菜等を販売）」や各種体験交流イベントの開催など、地域内経済の循環をはじめ地区内外の住民にとって貴重な交流の場を提供してきた。しかし、著しい高齢化の進行により、交流人口・関係人口を増やすことが急務であるとの認識から、大学生など「よそ者・若者」の目線から地域の資源を再発見することの必要を痛感し、LIP参加学生と協働でのプロジェクトの立ち上げを企画した。

2. 活動の内容

コロナ禍で学生の対面型での活動が大きく制約を受ける中、現地の受入事務局を担当する「地域おこし協力隊員」とのオンラインでのミーティングを積み重ね、コロナ収束後の域学連携活動の再開に向けた「基礎調査」として、①観光学部学生を対象とした大崎地区の取り組みに対する認知度アンケート調査（Web）、②朝市等の訪問客を対象とする地域資源の魅力に対するアンケート調査（留め置き回収方式）の実施に向けた活動に取り組んでいる。

3. 活動を通じて

当初から複数年度での活動が提案されていたことから、今年度のみで成果を上げて完結させようといった焦りを持つことなく、多少の制約があったとしても、オンラインとはいえ次年度以降に繋がるような現地受入事務局との密度の濃い意見交換が行われたことの意義は大きい。参加者が1・2年生を中心とするメンバーで構成されていた初めてのプログラムではあったが、逆にパイオニア精神が発揮され、参加学生たちは極めて熱心に活動した。次年度以降の活動に大いに期待がもたれる。

4. 成果物（ポスター）

海南市LIP

荻野 愛① 上村 加奈②
長谷川 珠希① 武子 遼音①
担当教員: 藤田武弘教授

【基本情報】

～海南市～
海南市は和歌山県の北西部沿岸に位置する人口約5万人の市です。

～活動状況～
私たちは海南市の中でも北西にある大崎地区を主な活動地としています。今年
は感染拡大防止のため現地へ行くことはほとんどできませんでしたが、山と海に
囲まれた自然豊かな地域です。奥まった港や山道を抜けた先にある小さな街並
みは思わず写真に収めたくなるほど魅力的です。

～活動メンバー～
2年生1人、1年生3人の計4人で活動しています。

↑ オンライン上での
ミーティング活動中

【活動目的】

- 海南市大崎地区の交流・関係人口増を目指したエリア体験型観光コンテンツの開発
- 地域の資源を活用した新たなコンテンツを作るために、海南市大崎地区のことを知る
- 大崎地区が、他地域の人からどのように思われているのかを調査し、コロナ後に円滑にコンテンツ開発に進めていけるようにする

【活動内容】

6月 活動開始 → 9月 現地訪問 → 10月 オンラインミーティング → 11月 アンケート作成

現地の様子

地域おこし協力隊
隊員の方にも
ご協力いただきました。

【学び・気づき】

今年度の活動では、コロナウイルスの影響もあり、現地調査を一度しか行うことができませんでしたが、地域おこし協力隊隊員の方の協力のもと訪れたげんき大崎では、美しい海と地域の方の暖かさに触れることげでき、魅力発信と向上に努めたいという思いが強くなりました。

その後、地域の方も含めオンラインミーティングを進める中で、若者の認知度を高めたり、魅力を発信していく必要があるという現状を知りました。

そのため、現在はアンケート実施に向けて話し合いをし、アンケート実施後は内容を生かした観光コンテつづくりを行いたいと考えています。

また活動を通して、地域の方目線と、学生目線で物事を考えられるようになったことが、私たちの成長であり、今後も活動を通してさらに学びを深めてゆければと考えています。